

平成30年度 後期 学力向上を図るための全体計画

学校名 墨田区立押上小学校
校長 根来 郁明

1 学力向上に関する自校の状況

(1) 平成30年度区学習状況調査結果から

- ① 国語
 - ・3・4年生は、「書く力」で目標値を大きく下回っている。
 - ・5年生は、「書く力」「読む力」で目標値を大きく上回っている。
 - ・6年生は、「言語についての知識・理解・技能」で目標値を大きく上回っている。
- ② 社会
 - ・4年生は、「社会事象についての知識・理解」で目標値を大きく下回っている。
- ③ 算数
 - ・2年生は、「数量や図形についての技能」で目標値を大きく上回っている。
 - ・3・6年生は、「数学的な考え方」で目標値を大きく下回っている。
 - ・5・6年生は、「算数への関心・意欲・態度」で目標値を大きく下回っている。
- ④ 理科
 - ・5年生は、「自然事象についての知識・理解」で目標値を大きく下回っている。
 - ・6年生は、「観察・実験の技能」で目標値を大きく下回っている。

(2) 経年変化から

- ① 全国平均正答率
 - ・3～6年生は、算数が上昇している。
 - ・5年生は、全教科上昇している。
 - ・3年生は、国語(0→-0.5%)が下降している。
 - ・6年生は、社会(2.1→-0.6)、理科(-2.4→-7.4)の平均値が下降している。
- ② D・E層の割合
 - ・3年生の算数以外、D・E層が増加している。

2 平成30年度【前期】学力向上の取組(方策)の実施状況(どの方策がどの程度実施できたか)

<p>学力D層・E層の児童数を昨年度より減少するための取組</p> <p>▲3～6年の算数で習熟度別学習を実施している。 → 学習内容の定着は不十分である。</p> <p>○毎週金曜日朝学習・土曜日3校時「ステップ学習」を実施、全学年で学習内容の定着を図っている。</p> <p>○毎週1回「放課後すみだ塾」で、3～6年生の算数の補充学習を行っている。</p>
<p>「読む能力」を育成するための取組</p> <p>○毎週水曜日「読み聞かせ」、毎週火曜日「朝読書」を実施、全学年で「読む力」の育成を図っている。</p>
<p>「思考力・判断力」を育成するための取組</p> <p>▲各教科で問題解決型授業を展開する。 → 説明、講義中心の授業が多く、不十分である。</p> <p>○校内研究(国語)を通して、「話す力・聞く力」の育成を図っている。</p>
<p>学習意欲を高める取組</p> <p>○1日1回以上、ICT機器を活用し、興味・関心を高める導入を行っている。</p>

3 平成30年度 後期における学力向上に関する具体的な取組

(1) 学校全体で組織的に取り組んでいくこと

- ① 「わかる授業」「意欲を引き出す授業」の実施
 - ・意図的・計画的に「週の指導計画」を作成し、本時のねらい(身に付けさせたい内容)を明記する。
 - ・学習活動において、既習事項を活用した学習場面(導入)を設定する。
 - ・学習活動において、本時の学習内容を確認する学習場面(終末)を設定する。
 - ・1日1回以上、ICT機器を活用した授業を行い、興味・関心を高める導入を行う。
- ② 現学年で身に付けるべき学習内容の確実な定着
 - ・各教員が学力向上プランを作成し、改善策を実施する中で、各教科の課題を改善していく。
 - ・学力向上推進委員会で、「ステップ学習」や「放課後すみだ塾」の指導内容を検討する。
- ③ 校内OJTによる指導力の向上
 - ・主幹教諭、主任教諭をOJT担当者として、学力向上につながるポイント等の研修を行う。

(2) 特定の学年や特定の教科において取り組んでいくこと(学年や教科を明記する)

- ① 3年生・社会「社会事象についての知識・理解」: 地図記号、生産や販売
 - ・地域の様子を地図に表したり、地図から街の様子を読み取ったりすることで主な地図記号を理解する。
 - ・生産や販売の様子を見学し、実際に話を聞く活動を通して、生産や販売の仕事の工夫について理解する。
- ② 2年生・算数「数学的な考え方」: たし算・ひき算、かけ算
 - ・具体物や図を、式や言葉の式と関連付け、考えたり、説明したりすることができるようにする。
- ③ 4年生・理科「自然事象についての知識・理解」: 昆虫、月と星、物の体積と温度、物のあたたまり方
 - ・昆虫、月や星を観察する機会を多くもち、観察したことを図や表に整理することで理解を深める。
 - ・物の温まり方や体積の変化について実験を行い、金属、水、空気の性質の違いについて理解する。
- ④ 5年生・理科「観察実験の技能」: 植物の発芽と成長、顕微鏡の使い方
 - ・発芽条件と成長条件について、変える条件と変えない条件を区別して、対照実験ができるようにする。
 - ・魚の卵や水中の小さな生物等、顕微鏡を使って観察し、器具を適切に操作できるようにする。

4 3の取組の成果指標と具体的な目標

成果指標(成果があったかどうかをどのように判断するか)	具体的な目標(できるだけ数値化する)
<p>○振り返りシートの活用 → DE層を減少させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率の低い問題は、単元末に類似問題(振り返りシート)を活用し、現学年で確実に定着させる。 ・授業の終末に本時内容の類似問題(振り返りシート)を活用する。さらに宿題として繰り返し活用する。 <p>○学校関係者評価等による評価 → 肯定的評価を増加させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校外部からの意見により教員の意識を変える。 	<p>○次の学年で全国平均を上回る。</p> <p>○単元末での学習内容の正答率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、社会: 80%以上 ・社会、理科: 70%以上 ・算数: 65%以上 <p>○授業規律の徹底。「わかる授業」の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価は85%以上。

5 平成31年度の区学習状況調査の目標(D・E層の割合をどれだけにするか)

(新3年) 国語… 15%	算数… 20%		
(新4年) 国語… 20%	社会… 20%	算数… 20%	理科… 20%
(新5年) 国語… 30%	社会… 30%	算数… 25%	理科… 20%
(新6年) 国語… 20%	社会… 30%	算数… 40%	理科… 30%